

陳 述 書

私は、[REDACTED]に住む[REDACTED]です。私は主として不動産業を営んでいます。

私は、市野弁護士、元妻の[REDACTED]は、豊田弁護士を代理人に立て、離婚訴訟で争いました。

私の代理人であった市野弁護士は、いろいろな問題があつて、現在、和歌山弁護士会に懲戒請求を出していますが、私は豊田弁護士から、元妻の離婚関係で、30数件の提訴を行われていました。

私の代理人であった市野弁護士は、元妻の離婚関係で30数件もの提訴を行われていることを私に言わず、ただ弁護士費用を請求するだけで、私は皆目見当もつかず、別の弁護士を当たりましたが、由良弁護士、山崎弁護士に、市野弁護士の代わりに私の離婚訴訟の弁護をお願いすれば、理由も言わずに断られました。

他方、豊田弁護士は、訴訟に勝ったから、私に海南市にあるホテルを明け渡せと言ってきました。私は、てっきり訴訟に負けて裁判所の命令が出ているものと思い、ホテルを明け渡したところ、身内のものが、それはおかしいのじゃないか？と私に言ったので、私は市野弁護士に判決文を見せると掛け合つたところ、そのような判決文がなかったのがわかりました。しかし、すでにホテルは明け渡した後で、私が、私の名義のホテルに行ったところ、豊田弁護士が県警に掛け合つて、警察官の前で、私の名義のホテルなのに、平気で、このホテルは、元妻の所有物件だと嘘をつかれ、そのため、豊田弁護士の嘘を信用した和歌山県警海南署に住居不法侵入容疑で海南署に逮捕されたこともありました。

それで、再逮捕も含め50日、留置場に拘留させられました。その上、たまたま一緒にいた当時高校生だった息子も20日間ほど、留置場に拘留されました。この保釈のための弁護を依頼した、田中昭彦弁護士に、私の離婚訴訟の弁護をお願いしたら、田中弁護士は「あなたは、すでに元妻の代理人から、30数件の提訴をされており、あなたの弁護を引き受ければ、他の依頼人の仕事ができなくなる。」と断られて、初めて、私は、元妻の代理人である豊田弁護士から、30数件の提訴を行われているのを初めて知りました。この30数件の提訴のせいで、私の弁護人になってくれる弁護士は皆無であつたのもわかりました。

この30数件の提訴で、豊田弁護士は機会があれば、私のところに抗議に来て、深夜でも、抗議のためなら飛んで来るようになりました。そして、県警を呼んで、判決が出ていないのに、判決があつたかのように見せかけ、県警に私を逮捕させようと執拗に来るようになりました。

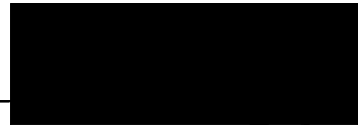
訴訟手続きすら知らない私は、弁護人なしで、この30数件の提訴に応じなければならず、当然すべて敗訴となり、和歌山市北の新地のホテル(土地130坪)、海南市名高のホテル(土地300坪)を含む総額7億5千万円以上あつた私の全財産を失いました。

このように、裁判に勝つためには、どんな手でも使う、豊田弁護士に対して、怒りが収まりません。

平成26年5月23日付の毎日新聞で、和ネットが、弁護士懲戒請求を出して、弁護士に訴えられたという記事を見て、インターネットで、和ネットを検索して、訴えた弁護士が豊田弁護士であることを知り、驚きました。それで、私が30数件の提訴を受けて、敗訴で、全財産を失った悔しい思いから、和ネットの吉田さんに連絡を取りました。和ネットの吉田さんの説明から、弁護士懲戒請求の制度を知り、余計に悔しい思いが募りました。それで、市野弁護士には、遅くなったが、和歌山弁護士会に懲戒請求を出しましたが、元妻の代理人であった豊田弁護士に対しては、私の悔しい思いを晴らす方法がありません。それで、吉田さんの訴訟の場をお借りして、私の悔しい思いを吐露した次第です。

平成26年 12月12日

氏名



和歌山地方裁判所御中